

## (公財) 日本ヘルスケア協会から

発行：日本ヘルスケア協会 事務局

今回は、定時記者会見の夏休みだった8月発行の特別号以降の動きについてご報告します。

1. JAH1・PHI はまず協会内の理解を深めて頂くために「第1回ミニセミナー」を開催しました  
プラネタリーヘルスは JR 東日本と東京大学が高輪ゲートウェイ駅を拠点に 100 年間の産学協創協定を締結したり、日本経団連が 9 月 11 日に第 1 回「プラネタリーヘルス産学連携イニシアティブ」会合開催を計画したり、と周辺の動きが急になってきていますが、協会内部での理解をより深めて頂くために、各部会の幹部の方々を対象にした「ミニセミナー」を企画し、8 月 26 日（月）午後、第 1 回目を開催しました。桐村代表による基本概念の解説、今後の社会経済に与える影響、今後の取組みの方向性の示唆等が語られた 2 時間でした。第 2 回は 9 月 16 日（祝）の午後 2 時～4 時、PHI9 月会合（4 時～6 時）の前の時間に開催されます。聴講（無料）ご希望の向きは JAH1 事務局までお申し越しください。

2. 第 2 回「中野健幸どまんなか市」が 11 月 21 日（木）開催されます  
中野区役所と当協会の地域包括ケア推進パートナーシップ協定に基づく「健幸どまんなか市」が、6 月 13 日の第 1 回に続いて 11 月 21 日（木）10：00～16：00、第 2 回目が中野区役所新庁舎 1 階で開催されます。300 余名の参加となった第 1 回で好評だった「健康チェック」をはじめ、「体験会」、「セミナー」、「展示」の 3 ジャンルを軸に、今回も 500 名以上の一般参加を目的に、当協会の他、現在既に 5 つの団体が参加を申請しています。  
スペースには限りがありますので、出展ご希望の部会は早目にオファーをお願いします。



3. 10 月の記者会見には伝説のブラジルの巡回診療医師・森口エミリオ秀幸氏をお迎えします  
100 年以上も前に始まったブラジルへの移民は、既に 6 世を数えるまでになり、今や日系人の人口は 190 万人に達し、日本の次に日本人の多い国になっていると言われています。しかし、広大な国土の中で、へき地に住み続けたり、ポルトガル語を習得するチャンスに恵まれず、医師のポルトガル語による診察が受けられなかったする日系人は多く、それらの人々にとっては、日本人医師による巡回診療が命綱となっています。

祖父・細江静男氏がブラジルで日系人への巡回診療を 1930 年に始めて 90 年近くが経とうとしています。父・森口幸雄氏の後を継いで、毎年 3000 km 以上の距離を移動しながら約 1 か月をかけて日系人の無償の診察を続けている森口エミリオ秀幸氏は、文字通り「ブラジルを駆ける赤ひげ先生」として人々の尊敬を集めています。

その森口エミリオ秀幸先生が、この度、10 月中旬に来日され、以前から親交のあるモダン・マーケティングの山本武道代表のご斡旋により、忙しい時間を縫って記者会見に登壇して頂けることになりました。

そこで、JAH1 では通常、第 2 火曜日に開催する定時記者会見を 10 月に限り第 3 火曜に開催させて頂くことといたしました。（10 月 15 日火曜日 16：00～17：30、JAH1 多目的ホール）

一口に巡回診療といっても、両側を原始林が広がる舗装されていない道を、医療機器や医薬品はもちろんのこと、車がぬかるみから抜け出すための機材やロープ、携行缶入りのガソリン等を積んだ巡回診療車両で広大な国土を巡って現地の日系人の健康管理、疾患予防、治療を担うのは並大抵の苦勞ではないはず。そのような環境下における医療の実態について、じっくりお話を伺うこととしたいと思います。（そのブラジルの南部は今年 4 月末から続いた豪雨による洪水で 200 万人が被災する史上最悪の水害に見舞われており、その被害は前例が無い程の規模と言われています。被害の実態についての情報も共有させて頂きたいと思ひます。）

得難い機会です。どうぞ奮ってご参加ください。